

再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (ベトナム・ジャンボ団地 1/2000)

KS
DP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER
2012
VOL.089

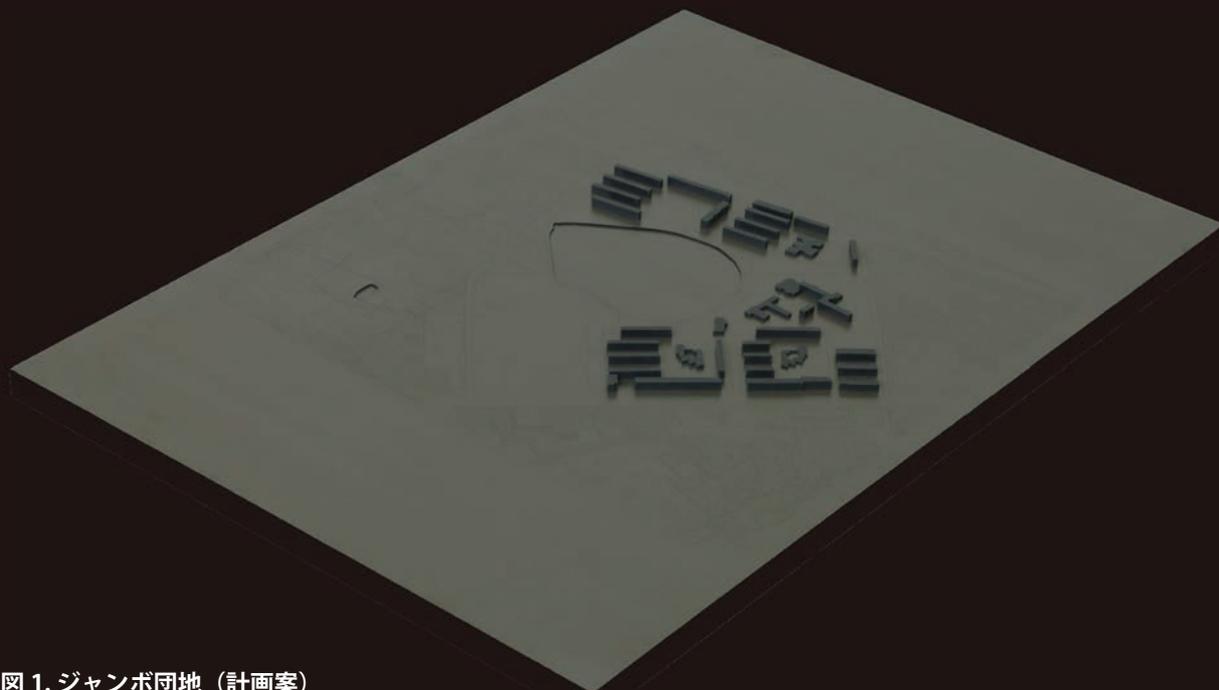


図 1. ジャンボ団地（計画案）



図 2. ジャンボ団地（現状：2012年）

空間比較模型の制作

アジアの社会主義体制下に建設された団地は、居住者による増築や改築などの自力更新が見られ、当初の計画案とは異なった空間が出来上がっている場合が多い。社会主義体制下の団地建設は、旧ソ連の計画理念の流れを汲んでいる。計画案と現在の団地空間の相違を端的に現すものとし、団地およびその

周辺の模型を作製した。様々な団地を同一の縮尺で模型とすることで、空間の特徴と現状を容易に把握できるようになった。

本稿では、1/2000の縮尺で制作したベトナム・ハノイのジャンボ団地の計画案と現状の模型について、その空間変化について分析を行うものである。

1. ジャンボ団地の特徴

ハノイには、1960年以降社会主義下に軍人用官舎、政府官僚官舎、国营工場官舎などとして、様々な団地が建設された。団地計画には、ソ連型のスーパーブロック近隣住区理念が取り入れられ、学校、警察、病院など近代的生活に必要な様々な施設が団地内に配置された。ジャンボ

団地は、1973年に建設された政府職員用のモデル住宅であった。中央に地盤改良のための池があり、旧集落に隣接した1970年代の典型的なハノイの団地の一つである。自由主義経済の導入以降、ハノイの集合住宅は住戸単位での払下げが進んでいる。

ジャンボ団地は、中央の湖を囲む4つの住区からなっている。平行に

配置されたプレハブ構造の5階建て住棟が27棟建設された。団地の中央部、湖の横には高等学校と市場が、4つの住区にはそれぞれ中央に幼稚園と保育園が計画されていた。街路沿いには当初から政府施設（大使館）が計画されていた。

しかしジャンボ団地の現状は、計画案とは異なり、計画には無かった



図3. ジャンボ団地（計画案）

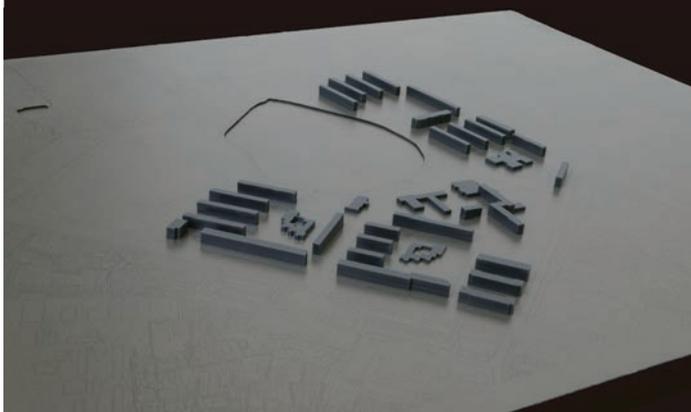


図5. ジャンボ団地（計画案）

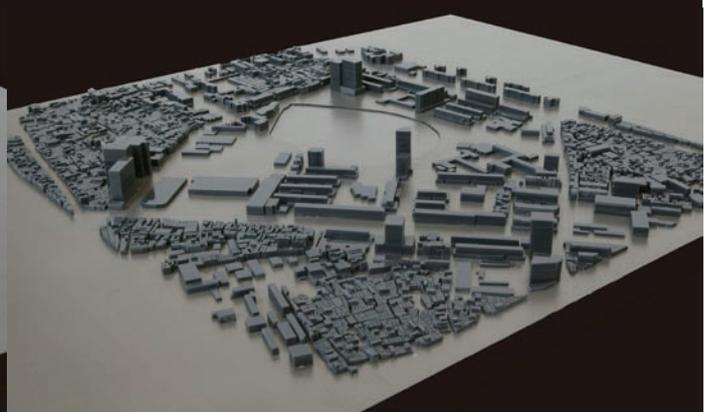


図6. ジャンボ団地（現状：2012年）

住棟が建てられたり、オープンスペースではバイクが密集して駐車され、樹木に簡単なテントを掛け飲食店が展開されたりしている。また、プレハブ構造で建設された住棟に、住民が思い思いの増築を行い、当初の立面がわからなくなっている。

ジャンボ団地においても、団地が建設された当初から計画案に無かつ

た要素（建物）が建てられ、計画通りの空間が作られたことが無いことを示している。また、ヨーロッパの団地の様に再生事業は行われていない。そのためジャンボ団地の模型を制作するにあたり、過去の団地空間ではなく、「計画案」の空間を制作することとし、団地の敷地以外の部分は制作対象外とした。一方、現状は

2012年時点とし、A1パネル1枚のサイズ、縮尺1/2000で制作した。

2. ジャンボ団地の空間変化

2-1. 真上からの比較

ジャンボ団地の計画案と現状の空間の違いは、大規模な変化では無く、小さいスケールの変化の集積となっている。



図4. ジャンボ団地（現状：2012年）

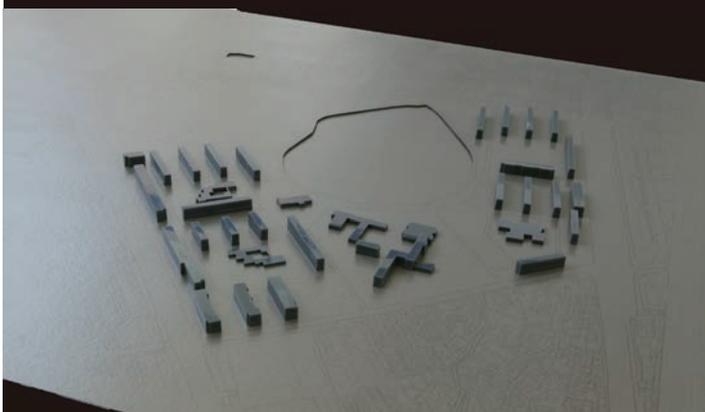


図7. ジャンボ団地（計画案）



図8. ジャンボ団地（現状：2012年）

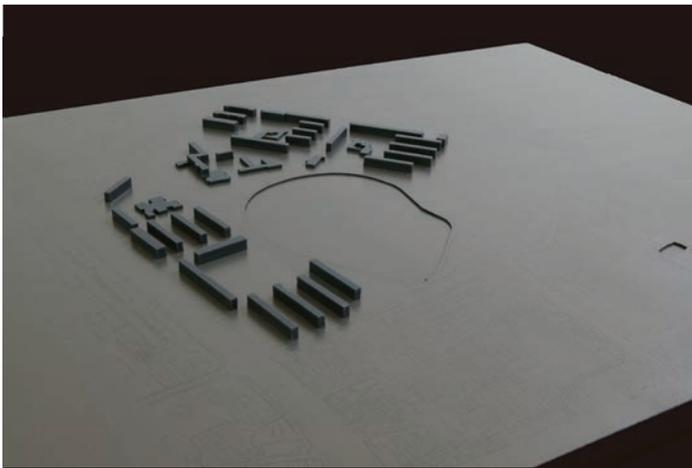


図 9. ジャンボ団地 (計画案)

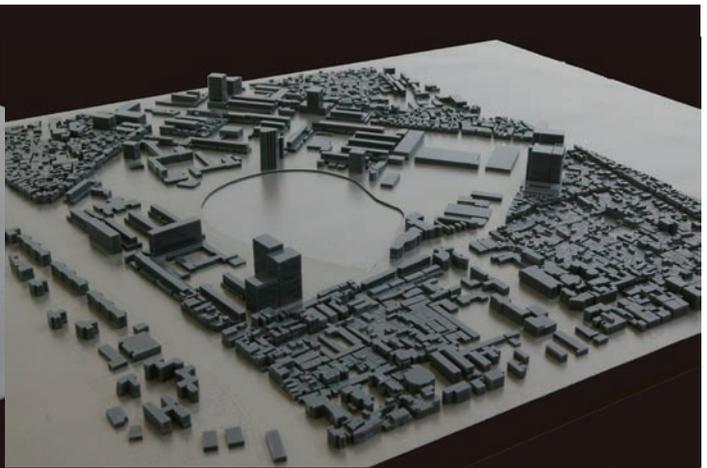


図 10. ジャンボ団地 (現状：2012年)



図 11. シュノーケルカメラの低いアングル (計画案)



図 12. シュノーケルカメラの低いアングル (現状：2012年)

真上から見た計画案(図3)では、ソ連によって計画された中層5階建ての均質な住棟が配置されていることがわかる。また、住棟だけではなく、学校も建設されている様子が見取れる。住棟とオープンスペースを用いた、スーパーブロック型の団地であることが把握できる。

一方、現状(図4)では、中層住棟に細かなスケールのヴォリュームが多数付加されており、住民による増築が多数行われている様子が見取れる。また、計画案には無かった高層の建物もできている様子が把握できる。これらの高層住棟も住民に

よる増改築が行われている。

図4から読み取れる団地の周辺地域は、ハノイの密集した集落が広がっており、低層の建物と路地を中心とした独特の空間を形成している。しかし、このような集落が広がる一方で、近年の経済成長による高層建築が建てられている様子も把握できる。

2-2. 俯瞰からの比較

ほぼ同じアングルから撮影した写真をセットにして図5～図10に示す。ジャンボ団地の敷地内で、計画案に無かった高層の建物がオープンスペースや、一部住棟を撤去して建てられている様子が見取れる。ま

た、団地周辺の集落との密度やヴォリュームの違いを把握することができる。

2-3. 低アングルからの比較

シュノーケルカメラを用いた低いアングルの写真を図11、図12に示す。計画案(図11)では、ソ連の計画による中層住棟による均質な空間が形成されている様子が分かる。一方、現状(図12)では、中層住棟に小さなヴォリュームが多く付加され、住棟の形態とヴォリュームが変化している様子が分かる。また、計画案に無かった高層の建物が増えている様子が見取れる。

関連リーフレット：004、026、058、059

『再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (ベトナム・ジャンボ団地 1/2000)』

執筆：岡 絵理子 (関西大学)
倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)
宮崎 篤徳 (")
増田 和起 (関西大学大学院 博士後期課程)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度～平成27年度)」によって作成された。

発行：2012年9月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : <http://ksdp.jimdo.com/>